

# 教団新報

定 価 1 部 140 円 ( 本 体 133 円 千 共 200 円 )  
予 約 購 読 料 1 年 分 千 共 5,000 円  
紙 代 の み 3,500 円  
振 替 00140-9-145275  
本 紙 を 購 読 ご 希 望 の 方 は 、 前 金 を  
そ え て 、 お 近 く の キ リ ス ト 教 書 店  
へ お 申 し 込 み 下 さ い 。  
教 会 の 購 読 料 は 負 担 金 に 含 み ま す 。

発行所 日本基督教団  
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18  
日本キリスト教会館内 電話  
03(3202)0546  
FAX03(3207)3918  
発行人 愛澤豊重  
編集主筆 竹澤知代志

## 教区総会報告 ②

兵庫・大阪・中部・奥羽・東中国



向井希夫議長の司式で按手礼式執行

### 相互不信は深まり行くの

前回号で「各教区を横断する主題は見えて来ない」と書いたが、今号に至り、それは、はっきりと浮かび上がってきた。ただ、その課題は、マイナスの課題だ。教団総会での議事運営に対する不信、教区総会への教団議長挨拶への批判が、幾つかの教区で議論になった。一方、教区内での宣教理解の対立が深刻な様子も覗える。亀裂は深まり行くのか、再び、ひとつ目的の地を目指すことができるのか。教会総会（教会会議）とは、主の御旨を探り知り、そのことによってこそ、互いを理解し合い許し合い、そして、協力するために、開かれるのだと考えるのだが、主の御導きを信じ、委ねるより他に不信解消の術はない。

### 教師制度問題への取り組みを再確認

兵庫

第61回「合同」後38回兵庫教区定期総会は、五月二〇日（日）～二二日（月）、神戸栄光教会を会場に開催された。

また、狭義の准允・按手礼式の方法にとどまらず、「教師とは何か」、「教師を立てる教会とは何か」という広義の「教師問題」に関する件」が承認され、八名の教師（准允・五名、

按手礼：三名）が立てられた。

宣教の使命を果たす北海教区形成の姿勢に感銘を受けた。また、一部の宣教課題が孤立無援の活動において、あぬよう、総合力としての宣教活動が教区活動にとつて必要であるとの示唆を受けた。互助・連帯を火急の宣教科題とする兵庫教区にとって良い刺激を受けた。

また、議案12号「兵庫教区機構組織見直し検討に関する件」では、兵庫教区クリスチャン・センター会計不正流用問題発覚後、教区の管理・運営体制について検討を重ね、見直し・検討事項を明らかにした。次期総会に向け更なる検討作業

が進められる。なお、不正流用被害額は、二〇一二年までに完済される見込みである。

また、議案15号「合同」とのらえなおし・歴史を生かされる教会として、共にこころを紡ぎ出すことを開始する件」では、「戦後」と言ってきた歴史認識を問

（竹内款一報）

### 教区内の対立が深まる中で

大阪

大阪教区総会は、五月三日（木）～四日（金）に

けて大阪女学院ホールチャペルにおいて開催された。憲法9条を「改悪」しようとする動きが強まる中、

今年は総会開始時間を遅らせて、午後一時より国際基督教大学の森本あんり教師を招いて、「戦後日本人とし

て憲法の歴史を生きる」と題する講演会を教区主催で開催した。そして、正議員

総数二九二名中二〇〇名の出席により、午後三時に議

長より総会成立が宣言された。組織会、仮議事日程案等の承認後、開会礼拝が守

られ、その中で准允・按手礼が執り行われた（准允・

阿部啓（南紀の台）、堀江知己（堺）、南豊（天満）、按手：中井大介（千里聖愛）。また、開会礼拝の説明者については、総会前の第10回常置委員会におい

て、総会準備委員会が提案した説教者に対する疑義が出され、採決の後これが否決されるという事態を受け、大阪教区の中心的な議案である「三号議案」に関

わる動きが続いてきた大阪教区問題小委員会の田中清嗣教師が説教者として立てられ、「三号議案」に関わっ

きた委員会の長として、痛みを持ってこの場に立つて「三号議案」の精神を継承する件、宣教

は終結するとの議長提案が出され、採決の結果、一七

三名中一七名の賛成により議案は終結となった。「三

号議案」に関する件は継続。常置委員会における開会礼拝説教者の否決等、教区内の対立が深まる様相を呈する中で、対立する双方の真理契機を認め合い、異なる意見にも耳を傾け対話を

【信徒】池田和弘（浪花）、東谷誠（いずみ）、鎌田英子（玉出）、山田淳子（大阪聖和）、江本義一（茨木東、楠原道温（茨木）、糸本資（石津、丸山健樹（和歌山）（佐藤成美報）



基調講演をする西岡昌一郎北海教区議長

い直し、私たちが見過ごしてきた時間を問い直し、「合同の」とらえなおし」に資する「こころ」を紡ぎ出していく作業を開始する事を決議した。

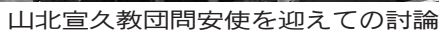
教団問安使として、鈴木伸治教団書記と愛澤豊重総幹事職務代行が来訪。山北宣久議長「教区総会への挨拶」については、正しい聖礼典を巡って、教会理解の一方的押し付けではないかの意見が交わされた。

「総幹事報告」については、兵庫教区昨年度議案19号を無効とした常議員会決議について触れられていない事等、質疑が集中した。

また、関東教区から村田元副議長が来訪され、被災教区として連帯の思いを述べられた。

副議長選挙が行われ、佃真人副議長代行に替わり、川上盾副議長が選出された。





中部

給う神による信仰告白を基

会の被災状況、復興に向けての報告がなされた。教会

請した教区通達を支持する  
が、代わって広報すること

教区から派遣を受けた建築士の診断で、外見上問題な



(1) 中部教区内募金活動、(2) 日本基督教団内募金活動、

区諸教会・伝道所で2007年度に3600万円を目

された。  
早速これらの実現に向け

また総会内で高橋潤新教  
区議長の司式により按手礼

【副議長】井ノ川勝（山田）  
【書記】横山良樹（平田）

中央）、中村友之（各務原）、  
本弘禮子（津）、大杉弘（若

邑原議長四選、副議長・書記再選

師の「兼務体制による宣教

「また上で教区の宣教を共に担ってゆくことに励み」

長にわたる十二項目の見  
について「承服できるもの

て、扱われたのが、孝臣、問安、使挨拶とそれを巡る質疑応

各教会にとつて、教団の現  
状を直接に聞き、また教区

の充実に努めること、憲法の改正に対する平和の希求、

てきたかな。お執行主役方法を巡っての議論があった。

田高陽) 松尾亭 (青森松  
原)、淺沼千春 (秋田桜)

主の御名を讚美いたします。

これらの諸教会は、地域の方々と共に復興に取り組んでおられますが、礼拝堂・牧師館・付属施設などに緊急の応急処置が必要であり、さらに、専門家の診断を受けて本格的な建て替えや修復に取り組まなければならない状況です。

中部教区より全国募金の依頼がありましたので、  
下記のように「能登半島緊急救援募金」を行います。  
祈り、ご支援をお願い申し上げます。

2007年4月13日  
日本基督教団社会委員会委員長  
張田 眞

◎目 標 額 1,000 万円  
◎募金期間 2008 年 3 月末まで  
◎送 金 先 加入者名 日本基督教団社会委員会  
◎郵便振替 00150-2-593699  
＊社会委員会独自の口座です。お間違えのないよう  
にお願いします（通信欄に「能登半島地震緊急募  
金」とお書き下さい）  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31  
日本基督教団社会委員会



# 「互いに顔の見える関係」構築を

## 三役一新、議長に宮崎達雄氏

東中国

白壁の土蔵を連想させる、倉敷教会の瀟洒な礼拝堂を会場に、五月二二、二日、第56回東中国教区定期総会が開催された。明治・大正のロマン薫る「美観地区」もほと近い。開会時で正議員九七名中六八名が出席した。宇野稔教区議長は、議長報告で、「教区この一年」を振り返り、特に「教区交換講壇」の実施を上げ、「教会相互、信徒相互の顔の見える関係」づくりを強調した。この三年間は教職のみであった「礼拝交流」を、「信徒が参加することで成果が高められる」と提唱した。



一新された三役、指方信平氏、宮崎達雄氏、宮川経宣氏

この日の夕食時には、新任教職を迎えての交流会が持たれたが、それでも、宇野議長の六年間、当初二年は毎週書庫で、後にはB5版で隔週に、各教会への通信が発行されたことに感謝が述べられるなど、四八教会伝道所の「顔の見える関係」構築の努力が偲ばれた。議長報告ではまた、三三教会一八五名の参加があった「教区の集い」、目標には届かなかった「教会強化献金」と「伝道を考える」が特に項目に上げられた。一方、日本基督教団の中に

## 教会の課題、信徒の課題としていくために

第35総会期第一回靖国・天皇制問題小委員会が、四月十六日(月)午後二時、十七日(火)午前十一時、教団会議室(キリスト教会館)において開催された。

今期の委員には、西之園路子(委員長・蒲原教会)、芳澤信(真和志教会)、須賀誠二(東京愛隣教会)、沼田和也(宇和島中町教会)、横山順一(石橋教会)の五名が

選任された。小委員会書記には互選により芳澤委員が選出された。

1. 信仰告白共同体としての日本基督教団の形成に寄与する働きを目指す。  
2. 1の大前提のもとに教団成立時から今日までの「教会と国家」の関係をどのように理解してきたかを検証する。  
3. 1・2を踏まえて「靖国・天皇制問題」を教会の課題、信徒の課題としていくために委員会として協議しながら担当。  
4. 当委員会の担当している課題と検証の成果を、社会委員会を経て教団に提言、各教会に発信する。  
5. NCC靖国神社問題委員会の働きで協力できることについては積極的に協力する。

協議の中で、なぜ靖国・天皇制問題が全教会の課題となっていないのかについて、多忙な日常において問題意識を維持することの困難さ、天皇制の染み付いた日本人気質、この問題を信仰に基づいて教会の問題として語ることができていない現状等が指摘された。今後委員会で、「教会と国家」「沖縄から見た天皇制」等についての主題を取りあげていく予定である。また、国立国会図書館が、二〇〇七年三月にこれまで非公開だった資料を含め、八〇八点の資料を収録した『新編靖国神社問題資料集』を刊行したが、この資料についても専門家から話を伺い、その講演要旨を「教団社会委員会通信」に掲載し、各教会に発信したいと考えている。

次回の委員会は、九月十三日(木)～十四日(金)に開催される。(芳澤信報)

## 北 海 福音宣教を共に担うために

西岡昌一郎

北海教区の教会・伝道所は全部で六四である。そのうち、十八教会・伝道所、約半数の会員が集中する札幌地区を別とすれば、残りの四六教会・伝道所は広大な北海道各地に散在している。隣の教会まで百キロ近く離れているのは珍しくないし、それ以上隔たっていることすらある。仮にある町の教会がなくなったら、数百キロにわたって「空白域」が生じることになる。小規模だからと言って、撤

## 教区 コラム

北海教区では、そういう状況の中で、相互に孤立することのないように連帯を大切に、違いと多様さを尊重してきた。あるいは万単位位の交通費をかける。数百円程度の交通費で移動可能なのは札幌圏の一部に限る。北海教区の活動は、時間と金をかけて連帯する。出し惜しみをしていたは、教区活動にならないからだ。(北海教区総会議長)



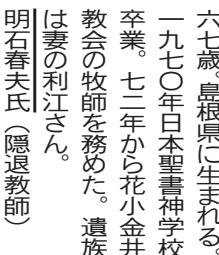
委員会が担うべき課題を話し合う

## 消息

横山幸夫氏(花小金井教会)



牧師) 三月二日、逝去。六七歳。島根県に生まれる。一九七〇年日本聖書神学校卒業。七二年から花小金井教会の牧師を務めた。遺族は妻の利江さん。



明石春夫氏(隠退教師)



三月二日、逝去。九二歳。東京都に生まれる。一九八四年日本聖書神学校卒業後、伊豆長岡教会に赴任。その後葉山教会を牧会し、九二年から九五年まで半原教会の牧師を務め隠退した。遺族は妻の照子さん。新名サノ氏(隠退教師)



三月二六日、逝去。八四歳。中国に生まれる。一九四八年日本女子神学校研究科卒業後、野方町教会に赴任。その後本郷中央、武蔵境、武蔵野井口(伝・現境南、飯能各教会を牧会)、八九年に稲城教会牧師を務め九二年隠退した。

## 事務局報

正教師登録

伊丹美貴、簡井昌司	中村吉基、丸山和則	杉村和子、西山崇文	飯田英章、安藤博子	(二〇〇六・十二・十受按)	教師異動	浪江	福島新町	天草平安	名古屋中央	麻生	梅花女子大学	関西学院大学	坂城栄光	山梨	南三鷹	志布志	長崎平和記念	大台めぐみ	敷島	新栄	七戸	堺清水橋	広島流川	大阪昭和	柴宿	西新井	三宅島	新横浜	洛北	西新井	阿佐ヶ谷	
辞(主)末留英夫	辞(主)瀧山結実	辞(主)南條道雄	辞(主)西村清	就(主)森田喜之	就(主)森田香代	辞(主)児玉義也	辞(主)児玉慈子	辞(主)赤松敬明	就(主)溝口賢次	辞(主)島典英	就(主)島典英	就(主)吉岡喜人	辞(主)大田健悟	就(主)横山潤	辞(主)高橋良隆	就(主)森島豊	就(主)内海恵子	就(主)丹羽利夫	辞(主)津田一夫	就(主)棟居勇	就(主)田中寛也	辞(主)森田香代	辞(主)老田信	辞(主)福万信広	辞(主)福万信広	就(主)河合裕志	辞(主)河合裕志	辞(主)河合裕志	辞(主)河合裕志	辞(主)林牧人	辞(主)林牧人	辞(主)北川義也



# 靈感商法資金が土地開発に

## 日韓統一協会問題セミナー

四月十七(二)日、韓半島南端にある麗水光林長老教会を会場に「日・韓教会連合異端似而非対策セミナー」が開催された。昨年一月のソウルに引き続いて二回目の開催となる。

日本側からは「統一協会問題キリスト教連絡会」を構成する日本基督教団、カトリック教会、日本聖公会、日本福音ルーテル教会、日本バプテスト連盟の五教派の代表、弁護士、被害者家族の会、マスコミ関係者ら二三名、韓国側は大韓イエス教長老会異端似而非委員、麗水地区諸教会の牧師、長老執事、麗水市長、市議会議長、議員ら関係者約百二〇名の参加であった。ちょうど太田洪量元統一協会会長の南米パラグアイでの誘拐、三二名の犠牲者を出したヴァーシニア工科大の韓国大学生銃乱射事件のニュースが流れ騒然とした中での開催であった。

松島のような深いリアス式海岸と島々に囲まれ、鏡のような静かな湾を持つ麗水市は韓国でも最もクリスチャン人口の多い町であるが、二〇一二年に海洋博を開催予定している。開発に際して靈感商法等の巨額で違法な資金を背景に統一協会が絡み始めているという韓国側からの訴えを受けての現地開催であった。

十八日は卓志(タチ)釜山長老派神学大教授の「統一協会の麗水への浸透―地域開発が地上天国の建設か?」元信者でもある竹迫之白河教会牧師の「日本における統一協会の現状」、渡辺博・李春熙両弁護士との「裁判所を通じた被害救済について」といういずれも内容の濃い講演がなされた。前回のセミナー同様講演は全文翻訳配布され、その資料は韓国マスコミに採り上げられ、統協会への牽制材料となっている。

十九日は麗水市議会のチャーターしたバスと船により現地視察。この一年間の市挙げての反対運動の成果もあり、統一協会関連企業が開催団体から撤退、世界貿易センターを中心とした開発へと変わりつつあるがなお予断を許さない状況にある。海洋博会場からだいぶ離れているものの統一協会は三百万坪という広大な土地を購入、また法を曲げて景観を壊す高層ビルの研修所が建設中で、その屋上にまるで北朝鮮の「主体思想塔」を模したような教祖を称えるオブジェを設けようと計画までされていた(展望台案に撤回変更となっていた)。「統一協会は何れも現地に利益をもたらない。ゴミだけを残していく」と案内の中で議員が訴えていたのが印象的であった。今回教団から愛澤総幹事職務代行、新旧の宣教委員長が参加した事は韓国側の注目を集めていた。



ヨス市役所前で



高橋潤宣教委員長(左)、愛澤豊重総幹事職務代行(右)と通訳に当たった洛雲海(ナグネ)氏(セムナン教会協力牧師)

### 「隠退教師を支える運動」(百円献金)

#### 第35総会期第1回推進委員会報告



教団会議室テラスにて

今期第一回の推進委員会が四月十八日(水)午前十一時から午後三時まで教団会議室において開催された。

開会礼拝では野村和正宣教部幹事から「フィリピの信徒への手紙を通して」他人のことに注意を」と題した説教をいただいた。今期の組織として委員長に多田信一、実務委員に大杉弘、書記に滝川英子の各委員を選出した。

諸報告として滝川書記、黒沢事務局から、二〇〇六年度事業報告、二〇〇六年度推進状況報告、二〇〇六年度決算報告がなされ承認した。

二〇〇六年度は全国八五八教会から七、四四八万七〇〇円の献金があり、年金協力金に三、九六〇万円、謝恩金原資に二〇〇万円、すべての隠退教師と遺族九〇九名に一人二万円のクリスマス祝金、教師退職年金制度発足以前に隠退された教師と遺族に一人七万円、にじのいえと信愛荘に各五〇万円を支出した。

また、二〇〇六年度には七月に京都教区両丹地区、二〇〇七年一月に西東京教

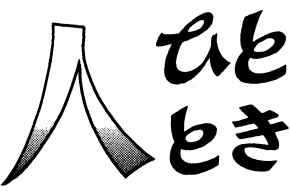
区、二月に九州教区福岡地区、三月に東京教区東支区で推進座談会が開催されたことが報告された。

続いて、二〇〇七年度における計画額、会議日程、推進座談会開催等のほか、教団教師退職年金の現状と「隠退教師を支える運動」の今後の活動「隠退教師を支える運動」三〇周年にむけての今後の展望等について協議した。

二〇〇七年度全教区推進委員会は六月二六日から二七日まで、教団会議室で開催されることが決まった。また、協議の中で、来年この運動が始まって三〇年を迎えるに当たり、何か意識したものを構築したいとの提案があった。

一九七八年に開催された教団総会の決議を経て教団の信徒運動として全国的に推進されて以来、年々参加教会が増え、大きく育っていることは、この運動に対する全国の教会伝道所の皆様のご理解・協力の賜物であり、この運動がますます有意義なものとなるよう折りつつ、委員一同更なる努力を重ねていきたい。

(奥野力ネ「報」)



小菅あけみさん

### 英語礼拝を支える



東京生まれ。欧米留学からの帰国後、柏教会員。柏市教育委員。柏市国際交流協会副会長。

月に一回、第二主日の午後二時から、柏教会の国際礼拝(英語礼拝)が始まる。三〇人ほど、多いときで四〇人近くが集まるが、周辺地域に特に外国人が多い訳でもないのに、今は中国からの留学生、アフリカからやって来た夫婦など外国人は少数で大半は日本人である。従って説教には通訳がつく。

柏教会で英語礼拝が開始されたのは一九九〇年。その四年前からバイブルクラスを始めたが、開始時から中心になって来たのが小菅さんだった。「ハーグ(オランダ)、その後の米国留学時代に、教会に繋がっていることの喜びを感じた。教会が生活の中心にあるのを知って、日本に来ている外国人は寂しい思いをしているだろうと感じ、そうした人に応えたいと思った。もう一つは、英語を勉強したいという若ものを誘って教会に導ければと願った」からだ。

得意の英語を活かして、最初に通訳も小菅さんがして、毎週礼拝をもっていたが、その後今の月一回に落ち着いた。通訳も後継者が育って今では、コーディネーターとして英語礼拝を支えている。説教は教団に属するある宣教師が交代で担当し、教会のホームページに英語の説教を掲載している。教会が国際礼拝と名付けているのは、英語だけでなく、他の外国語礼拝もという願いからだ。外国語礼拝にはまだ年月がかかりそうだし、外国人で一杯になることも、現実的にはなかなか厳しいものがある。だが、小菅さんの第二の願い、若ものを誘うという願いは叶った。

### 帰住先考

知人の牧師から電話をいただいた。同じく教誨師を担っている牧師である。この秋に、今まで教誨をしていた受刑者が出所する。教会に出席したいと言っているの、当教会に出席することを勧めたいという内容である。刑務所にしても少年院にしても、出所する人達は帰住先が大きな課題になる。不安を抱えながら帰っていくのである。刑務所の出所者は成人者であるので、必ずしも自分の家に帰らなくても、他の町で働いて生活することが出来る。しかし、少年達は帰住先について不安を持ち続けている。少年院で少年と面接するとき、いつも話題になるのが帰住先である。少年たちは親の保護下にあり、自分の家に帰らざるを得ない。少年で良いかという内容である。

電話の教誨師の知人には、もちろん受託した。帰住先は異なる町であるが、それほど遠い距離ではない。その町にも教会はあるが、自分を知らない群れのほうが良いと考えるからである。教会は人々の帰住先であること示したい。(教団総会書記 鈴木伸治)